

ボーイスカウト練馬地区で
活動に携わる指導者のみなさまへ

ボーイスカウト練馬地区
地区委員長 中田 昇
安全管理委員長 佐藤 直樹
地区コミッショナー 星名 英樹

新しい生活様式を念頭に置いたスカウト活動の展開について（ガイドライン）
～安全・安心+いきいきスカウティングに向けて～

三指

日頃より、スカウト活動の充実にお力添えをいただき、ありがとうございます。
また新型コロナウイルス感染拡大防止のための各団、各位におけるお取り組みに、あらためて御礼を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大がなかなか収まらない中、日本連盟から「新型コロナウイルス感染への対応について（第10報）」が出されましたが、まだ終息したわけではありませんので、練馬地区として6月29日に発出したガイドラインに基づき取り組みを継続してまいります。

つきましては、各団・各隊の活動は本ガイドラインをベースとし、団としての確なご指導・ご支援をお願いいたします。

また、今後の感染状況の変化とそれに伴う自治体や日本連盟、東京連盟の対応の変化によって、ガイドラインの修正やあらためての自粛措置のお願いをすることもありうることもご承知おきください。

よろしくお願い申し上げます。

弥栄

1. 日々の生活の中で努めたいこと／すべきこと

- (1) 新しい生活様式におけるスカウトとしての「ちかいとおきて」「やくそくとさだめ」「やくそくときまり」の実践とは何かを一人ひとりが考え行動しましょう。以下、(2)～(10)の内容は、その一部にすぎません。
- (2) 日々の生活の中で検温、手洗い(含・手指消毒)、うがい等を習慣化し、体調管理、感染防止に努める。
- (3) マスクを着用する。ただし、激しい運動をするときは外す。また、気温の高いときは定期的にマスクを外すなど、新鮮な空気を吸うようにし、呼吸困難や熱中症にならないようにする。
- (4) ソーシャル・ディスタンス(人と人との距離を1～2m あけること)をこころがける。
- (5) 日々の生活の中で「3つの密(3密)」と言われる「換気が悪い」「人が密になって過ごすような空間」「不特定多数の人が集まり接触する恐れのある場所」に身を置くことを極力避ける。
- (6) 日々の生活の中で体調不良を感じたときは、無理をせずに「休む」行動を取る。
- (7) 学校や職場など身近なところで感染者が出た場合は、2週間をめどに活動への参加を控えるなど、感染拡大防止の行動を取る。

- (8) スカウト活動に限らず日々の活動の中で多くの人々と接する可能性のある指導者は、自らの行動を律することで感染しない、感染させないようにする。
- (9) 感染症は誰でもかかる可能性をもっているため、差別意識はもたない。差別しない。誤解をもたれるような言動（発言や行動）はしない。
- (10) 流行中でも仕事に携わる医療従事者や公共交通機関などのライフラインを支える方々への感謝の気持ちを持ち、機会があれば伝える。

2. 対面での活動再開に際して

- (1) 【重要／必須】団として、必ず保護者会（もしくはそれに準ずる形）で保護者のみなさまに再開についての説明（コロナ禍のもとでの活動の安全・安心確保に関する団としての取り組みについて）をし、ご理解をいただけてください。その上で、集まったの集会を行ってください。
- (2) 【重要】団としての保護者会（もしくはそれに準ずる形）が時間の都合、あるいは3密回避の観点などからできない場合は、隊毎に保護者会を開催し、そこには団委員長が必ず同席し、上記(1)の内容の説明してください。
- (3) 上記(1)または(2)ができないうちは、対面での活動の再開は進めないでください。
- (4) 隊としてプログラムを考える際に、スカウトに「新しい生活様式」下でのスカウティングを考えるきっかけも作ってあげてください。

3. 活動日とその前後で行うこと

3～5ページを参考（活動計画・実施の目安）に、活動を計画・実施してください。

4. 活動の留意点

- (1) 活動の計画においては、感染防止策を徹底してください。集会後のスカウト、リーダーの健康状態の推移を把握できるような取り組みを団、隊、家庭の3者協働で行うようお願いいたします。
- (2) スカウトの活動のみならず、地区、団内の会議等も、オンラインで開催できるものはその方法を活用することをお願いいたします。
- (3) 夏季活動（舎営、キャンプ）、泊を伴う活動について
8月に予定している舎営やキャンプなど、泊を伴う活動は、9月以降に延期、もしくは中止をお願いいたします。緊急事態宣言や東京アラートは解除されてはいるものの、一方で第2波、第3波感染、感染拡大の心配は依然として残っています。舎営やキャンプは「3密」を生み出しやすい環境でもあるため、スカウトやリーダーのみなさんの安全と健康を守るためにも、延期、もしくは中止へのご理解、ご協力をお願いいたします。
- (4) 県外への移動を伴う活動について（日帰り含む）
上記(3)同様、まずは8月いっぱいまでのご遠慮ください。感染者数が増加している現状において、東京からの来訪は他県の方々からみると不安な気持ちになるのではないかと推測します。是非とも、逆の立場にたつてものごとを考え、行動に移すように努めてください。

(5) 年代（部門）の特性、隊の実情に合わせて無理のない計画をたてて活動を進めてください。

【参考資料】活動日とその前後で行うこと

対面での活動を計画、実施する際には、以下の内容を参考にしてください。

以下のリストは全てをクリアできればかなり安全・安心と考えられます。複数の専門家のご意見を伺ったところ、以下のリストは「最低限のものと考えてもいい」とのコメントをいただきました。しかしながら、本ガイドラインでは、全てをクリアすることを必須とはしておりません。

活動場所等の状況に応じて各団、隊でご判断いただき、より安全・安心の活動を実現できるように努めてください。

◆活動前

	組織（団・隊）としての取り組み	ご家庭、スカウト本人の取り組み
活動前	1 【環境整備】 活動場所が「3密（密閉、密集、密接）」にならない場所をセットする。「3密」にならないように、オンライン活動の併用等で、隊間の活動の調整を行う。	1 自宅を出る前に必ず検温するとともに、風邪の症状（発熱＜当人の平熱との比較。目安は、37.5℃＞、咳、くしゃみ、筋肉痛、倦怠感＜だるさ＞など）も確認する。
	2 【環境整備】 体調不良者が出たときの休憩&隔離が可能な場所（予備の部屋、少し離れた場所での休憩スペースなど）を決めておく。	2 上記1の症状がある場合は、活動を欠席し、ご家庭で様子を見る。
	3 【環境整備】 手洗いを十分にできる、流水のある場所を確保する。	3 マスクを準備する
	4 【備品準備】 石けん、ウェットティッシュ、アルコール消毒液を準備する。	4
	5 【備品準備】 備品としてのマスク（忘れたスカウトへの対応）を準備する。	5
	6 【記録】 事前に、スカウト、指導者、保護者、同伴者等、すべての出席者の名前を把握する。	6
	7	7
	8	8

◆活動中

	組織（団・隊）としての取り組み	ご家庭、スカウト本人の取り組み
活動中	1 「3密（密閉、密集、密接）」を避ける。	1 活動場所についたら、手洗い、消毒を最初に行う。
	2 スカウト、リーダー他、集会参加者の検温結果の報告を受けるとともに、体調の確認をする。	2 リーダーに、朝の検温結果を報告する。
	3 必ずマスクを着用させる。ただし、激しい運動をするときは外すように指示する。また、気温の高いときは定期的にマスクを外すなど、新鮮な空気を吸うようにし、呼吸困難や熱中症にならないように留意する。	3 必ずマスクを着用する。ただし、激しい運動をするときは外す。また、気温の高いときは定期的にマスクを外すなど、新鮮な空気を吸うようにし、体の調子を崩さないようにする。
	4 人の「手」が触れるところを触ったら、手をよく洗わせる。 ※石けんを使い、流水で30秒以上洗うように指導する。手が洗えない場合は、ウェットティッシュやアルコール消毒液で手を拭くようにする。	4 活動中も、人の「手」が触れるところを触ったら、手をよく洗う。
	5 人と人との距離を開けるように留意し、指導する。スカウトには相手との距離を片手～両手分開けるように伝える。 *ゲーム感覚で距離を保てる工夫ができると良い。	5 人と人との距離を開けるようにする。 ※相手との距離を片手～両手分開ける。
	6 水分補給が不足しないように、留意する。	6 のどが渇く前に、こまめに水分補給をする。一度にたくさん飲まずに、少しずつの水分補給をこまめに行う。
	7 使用備品は、こまめに消毒する。	7 自分たちで使用した備品は、感謝の気持ち、後に使う人たちへの配慮の気持ちをもって積極的に消毒（衛生管理）する。
	8 調理を伴う活動は、食材、調理器具の衛生管理をしっかりと行い、器具に関しては消毒を怠らない。	8 調理を伴う活動は、食材、調理器具の衛生管理だけでなく、常に手指の清潔を保つ。
	9 活動中、食事中など、必要以上に大きな声で会話するような場にはしない。食事や会話は、極力横並びになるよう指導する。	9 活動中、食事中など、必要以上に大きな声で会話するなどしない。できるだけ横並びで食事、会話をする。
	10 7月～8月の間は、屋内で歌を歌うことは控える。ハーモニカなどの直接口を接触させて演奏する楽器やホイッスルの使い回し（貸し借り）は止める。	10 友達の楽器（ハーモニカやリコーダーなど）やホイッスルを借りて使わない。
	11 解散前に体調の変化の有無を確認し、手洗いをして解散！	11 手洗いを忘れない。
	12 参加するリーダー全員が、集会参加者の様子を観察し、体調の変化や行動の変化に目を配る。不調者が出た場合は、早急に帰宅させるよう手配する。	12 調子が悪くなった場合は、速やかにリーダーに報告する。
	13	13

*集会中のうがいは、飛沫感染の危険があるとされているため、行う場合は十分に注意して行うよう、指導者のみなさんにご留意ください。

◆活動後

	組織（団・隊）としての取り組み	ご家庭、スカウト本人の取り組み
活動後	1 体調の変化等に関する連絡をいつでも受けることができるようにする。	1 帰宅したら、手洗い、消毒、うがいを最初に行う。
	2 保護者から「体調不良」「感染」などの連絡が来た場合には、その状況を当該隊リーダー、団委員長、安全管理担当団委員が共有する。	2 十分な休息を取る。
	3 万一感染者が出た場合には、個人情報に留意しながらも、活動計画書、報告書をもとに、できるだけ詳細な情報を入力し、地区コミッショナーへの報告とその後の連携を図る。 *地区は、報告を受けた後、ルールに則り東京連盟に報告します。	3 休息を取った後、検温する。
	4	4 集会後2週間、体調変化の様子を観察する。万一体調不良が生じた場合は、医療機関で診断を受け、その結果を隊長に連絡する。
	5	5
	6	6

<補記>

なお、今後の検討事項として、感染者が出た場合のマスコミ対応があります。

【体調不良→医療機関受診→感染の疑い→保健所等での検査→感染確認→団内共有→地区への報告】という流れを念頭においた場合、地区への報告の前に保健所が入り、その時点でマスコミが情報を入手し取材される可能性があります。

従いまして、もしマスコミからの取材が来た場合の対応は、まずは団として考えておいてください。活動再開を検討するに際し、団内で危機管理・対応体制の確認、必要に応じた改訂を行っていただくことをお奨めします。危機管理・対応体制が整っていない場合は、団内で検討し策定してください。

マスコミ対応と言う意味では、最低限、窓口を明確にし、一本化することが必須と考えます。いろいろな人が勝手に憶測等ではしゃべらないようにルール化してください。

地区としては今後、東京連盟に対しどのような対応をすることが望ましいかの確認をし、あらためて地区内での共有をさせていただきます。

以上